

1989年 大会記録

国際

◇マラルカップ=男子グレコローマン (2月、スウェーデン・バステラス)

▼48kg 級 大橋正教 (山梨学院大職) = 9位、佐々木昌恒 (自衛隊) = 4位、▼57kg 級 西見健吉 (自衛隊) = 6位、▼62kg 級 西口茂樹 (日体大助) = 二失、▼68kg 級 三宅靖志 (東海商船) = 二失

◇ニコラ・ペトロフ国際大会=男子グレコローマン (2月、ブルガリア・プレベン)

▼48kg 級 大橋正教 (山梨学院大職) = 三失、佐々木昌恒 (自衛隊) = 二失、▼57kg 級 西見健吉 (自衛隊) = 四失、▼62kg 級 西口茂樹 (日体大助) = 三失、▼68kg 級 三宅靖志 (東海商船) = 二失

◇メドベジ国際大会=男子フリースタイル (2月25~27日、ソ連・ミンスク)

▼48kg 級 小林孝至 (ユナイテッドスティール) = 棄権、▼57kg 級 金浜良 (日大) = 二失、▼68kg 級 赤石光生 (ユナイテッドスティール) = 四失、▼74kg 級 石川宏明 (日大) = 二失、▼100kg 級 高橋和生 (日大) = 二失、▼120kg 級 小幡弘之 (日大) = 二失

◇US国際トーナメント=男子フリースタイル (6月23~24日、米国・コロラドスプリングズ)

▼48kg 級 若松正 (東洋大)、平野孝喜 (山梨学院大)、▼52kg 級 水野将嘉 (早大) = 2位、坂木勇夫 (専大)、▼57kg 級 山下勝 (国士舘大) = 3位、岩下充昭 (日体大) ▼62kg 級 奥山恵二 (日体大)、▼68kg 級 木村孝弘 (早大)、▼74kg 級 碓修二 (国士舘大)、▼82kg 級 石沢常光 (早大)、▼90kg 級 秋山潤 (専大)、▼100kg 級 野々村孝 (山梨学院大)、▼130kg 級 間山泰範 (日体大) = 7位

◇カナダカップ=男子フリースタイル (6月30日~7月1日、カナダ・トロント)

▼48kg 級 若松正 (東洋大) = 4位、平野孝喜 (山梨学院大) = 3位、▼52kg 級 水野将嘉 (早大) = 6位、坂木勇夫 (専大) = 5位、▼57kg 級 山下勝 (国士舘大) = 5位、岩下充昭 (日体大) = 三失、▼62kg 級 奥山恵二 (日体大) = 6位、▼68kg 級 木村孝弘 (早大) = 三失、▼74kg 級 碓修二 (国士舘大) = 6位、▼82kg 級 石沢常光 (早大) = 三失、▼90kg 級 秋山潤 (専大) = 二失、▼100kg 級 野々村孝 (山梨学院大) = 二失、▼130kg 級 間山泰範 (日体大) = 7位

◇アジア選手権（6月30日～7月2日、茨城・大洗町）

《男子フリースタイル》▼48kg級 山下忍（日体大）＝5位、▼52kg級 石島勇次（茨城・霞ヶ浦高）＝二失、▼57kg級 金浜良（ユナイテッドステイール）＝3位、▼62kg級 栄和人（奈良県教委）＝優勝、▼68kg級 赤石光生（ユナイテッドステイール）＝5位、▼74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）＝4位、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）＝二失、▼90kg級 浅沼俊幸（自衛隊）＝4位、▼100kg級 中西学（和歌山県教委）＝4位、▼130kg級 小幡弘之（日大）＝3位

《男子グレコローマン》▼48kg級 大橋正教（山梨学院大職）＝2位、▼52kg級 中森昭平（警視庁）＝3位、▼57kg級 藤岡道三（日体大）＝2位、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）＝3位、▼68kg級 大久保康裕（自衛隊）＝優勝、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝2位、▼82kg級 屋比久保（沖縄・北中城高教）＝3位、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝優勝、▼100kg級 近藤務（自衛隊）＝優勝、▼130kg級 出口一也（和歌山県体育館）＝4位

◇世界選手権（8月24日～9月3日、スイス・マルティニー）

《男子フリースタイル》▼48kg級 山下忍（日体大）＝二失、▼52kg級 石島勇次（茨城・霞ヶ浦高）＝9位、▼57kg級 金浜良（ユナイテッドステイール）＝4位、▼62kg級 栄和人（奈良県教委）＝5位、▼68kg級 赤石光生（ユナイテッドステイール）＝2位、▼74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）＝9位、▼82kg級 菊地隆（和歌山県教委）＝三失、▼90kg級 赤石明雄（東山梨教育事務所）＝7位、▼100kg級 中西学（和歌山県教委）＝二失、▼130kg級 小幡弘之（日大）＝9位

《男子グレコローマン》▼48kg級 大橋正教（山梨学院大職）＝7位、▼52kg級 中森昭平（警視庁）＝四失、▼57kg級 藤岡道三（日体大）＝4位、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）＝9位、▼68kg級 大久保康裕（自衛隊）＝二失、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）＝6位、▼82kg級 屋比久保（沖縄・北中城高教）＝10位、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）＝7位、▼100kg級 近藤務（自衛隊）＝二失、▼130kg級 出口一也（和歌山県体育館）＝9位

《女子》▼44kg級 吉村祥子（代々木ク）＝優勝、▼47kg級 棗田朋子（吹田市民教室）＝2位、▼50kg級 福田京子（代々木ク）＝5位、▼53kg級 小滝初江（日体ク）＝7位、▼57kg級 坂本涼子（中京女大）＝2位、▼61kg級 星川君枝（ユナイテッドステイール）＝3位、▼65kg級 飯島晶子（日体ク）＝3位、▼70kg級 岩間利香（ユナイテッドステイール）＝3位、▼75kg級 清水美弥子（代々木ク）＝優勝

◇世界エスポアール選手権＝男子フリースタイル（モンゴル・ウランバートル）

▼48kg級 若松正（東洋大）＝棄権、▼52kg級 藤村和人（日大）＝二失、▼57kg級 坪井勇（日体大）＝二失、▼62kg級 川島健二（早大）＝8位、▼68kg級 太田拓弥（日体大）＝5位、▼74kg級 児玉健（中大）＝二失、▼82kg級 石庭新吾（アイシン精機）＝二失、▼90kg級 藤田和之（日大）＝二失、▼100kg級 野々村孝（山梨学院大）＝6位、▼130kg級 高橋則行（東洋大）＝二失

◇世界エスポアール選手権＝男子グレコローマン（ハンガリー・ブダペスト）

▼48kg級 浅川亮介（山梨・峡北高）＝二失、▼52kg級 尾白賢治（日体大）＝二失、▼57kg級 花原大介（日体大）＝三失、▼62kg級 松田昌明（国士舘大）＝二失、▼68kg級 明壁正人（山梨学院大）＝二失、▼74kg級 伊藤強（早大）＝三失、▼82kg級 渡部秀隆（自衛隊）＝二失、▼90kg級 高橋和夫（日大）＝二失、▼100kg級 野々村孝（山梨学院大）＝二失、▼130kg級 神子沢健一（自衛隊）＝7位

◇ワールドカップ＝男子グレコローマン（11月25～26日、ノルウェー・フレデリクタ）

▼48kg級 大橋正教（山梨学院大職）、▼52kg級 中森昭平（警視庁）、▼57kg級 藤岡道三（日体大研）、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）、▼68kg級 森巧（自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 屋比久保（沖縄・北中城高教）、▼90kg級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg級 野々村孝（山梨学院大）、▼130kg級 出口一也（和歌山県教育庁）

◇ネール記念国際大会＝男子フリースタイル（11月26日～12月2日、インド・ニュー

デリー）

▼48kg級 小林孝至（ユナイテッドスティーラ）＝二棄、▼52kg級 石島勇次（茨城・霞ヶ浦高）＝三失、▼57kg級 金浜良（ユナイテッドスティーラ）＝3位、▼62kg級 奥山恵二（日体大）＝5位、▼68kg級 赤石光生（ユナイテッドスティーラ）＝優勝、▼74kg級 有延伸一（福岡・北九州高）＝二失、▼82kg級 石沢常光（早大）＝2位、▼90kg級 浅沼俊幸（自衛隊）＝4位、▼100kg級 中西学（和歌山教委）＝5位、▼130kg級 本田多聞（自衛隊）＝4位

◇ハパラダ国際大会＝男子グレコローマン（12月1～3日、スウェーデン・ハパラ

ダ）

▼48kg級 大橋正教（山梨学院大職）、▼52kg級 中森昭平（警視庁）、▼57kg級 藤岡道三（日体大研）、▼62kg級 西口茂樹（日体大助）、▼68kg級 森巧（自衛隊）、▼74kg級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg級 屋比久保（沖縄・北中城高教）、▼90kg級

森山泰年（自衛隊）、▼100kg 級 野々村孝（山梨学院大）、▼130kg 級 出口一也（和歌山県教育庁）

国内

◇全国高校選抜大会（3月29～30日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（2年連続2度目）、[2] 静岡・沼津学園、[3] 岐阜・岐阜工、秋田・秋田経法大付

《個人戦優勝者》▼46kg 級 佐藤謙二（茨城・土浦日大）、▼50kg 級 石嶋勇次（茨城・霞ヶ浦）、▼54kg 級 伊藤弘之（栃木・足利工大付）、▼58kg 級 石川智久（茨城・土浦日大）、▼63kg 級 毎熊潤一郎（福岡・築上西）、▼68kg 級 福田貴司（栃木・足利工大付）、▼74kg 級 荻田剛志（静岡・沼津学園）、▼115kg 級 大竹康司（栃木・足利工大付）

◇西日本学生春季新人戦＝男子フリースタイル（ ）

《優勝者》▼48kg 級 町井孝（徳山大）、▼52kg 級 梅本正人（同志社大）、▼57kg 級 西田月巳（福岡大）、▼62kg 級 池田展久（桃山学院大）、▼68kg 級 古市輝雄（福岡大）、▼74kg 級 榎本晴俊（福岡大）、▼82kg 級 高田昌俊（近大）、▼90kg 級 渡辺康則（徳山大）、▼130kg 級 野崎賢治（近大）

※フリースタイルのみ

◇全日本選手権（5月5～7日、日大文理学部体育館、東京・代々木競技場第2体育

館）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 小林孝至（ユナイテッドスティール）、▼52kg 級 石島勇次（茨城・霞ヶ浦高）、▼57kg 級 金浜良（ユナイテッドスティール）、▼62kg 級 栄和人（奈良県教委）、▼68kg 級 赤石光生（ユナイテッドスティール）、▼74kg 級 原喜彦（新潟・新潟北高教）、▼82kg 級 菊地隆（和歌山県教委）、▼90kg 級 太田章（早大教）、▼100kg 級 中西学（和歌山県教委）、▼130kg 級 小幡弘之（日大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 大橋正教（山梨学院大職）、▼52kg 級 中森昭平（警視庁）、▼57kg 級 藤岡道三（日体大）、▼62kg 級 西口茂樹（日体大助）、▼68kg 級 大久保康裕（自衛隊）、▼74kg 級 伊藤広道（自衛隊）、▼82kg 級 屋比久保（沖縄・北中城高教）、▼90kg 級 森山泰年（自衛隊）、▼100kg 級 近藤務（自衛隊）、▼130kg 級 出口一也（和歌山県体育館）

◇東日本学生リーグ戦（5月18～20日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（11年連続13度目9、[2] 中大

（A組）[1] 日体大、[2] 国士舘大、[3] 専大、[4] 大東大、[5] 山梨学院大、
[6] 拓大

（B組）[1] 中大、[2] 早大、[3] 日大、[4] 東洋大、[5] 東海大、[6] 明大

◇西日本学生選手権（ ）

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 山根宣夫（徳山大）、▼52kg級 原田丈生（福岡大）、▼57kg級 嶋也幸（徳山大）、▼62kg級 中井直也（同志社大）、▼68kg級 柳本和紀（同志社大）、▼74kg級 岡田孝志（近大）、▼82kg級 岩本昭宏（福岡大）、▼90kg級 永渕智英（福岡大）、▼130kg級 横谷豊（徳山大）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 池田徹（福岡大）、▼52kg級 小泉円（同志社大）、▼57kg級 山本正志（近大）、▼62kg級 中井直也（同志社大）、▼68kg級 村上勉（桃山学院大）、▼74kg級 岡田孝志（近大）、▼82kg級 岩本昭宏（福岡大）、▼90kg級 永渕智英（福岡大）、▼130kg級 横谷豊（徳山大）

◇全日本社会人選手権（6月3～4日、東京・青少年総合センター）

《団体戦優勝チーム》▼実業団 ユナイテッドスティールA、▼クラブ 警視庁

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 東野勝（日野自動車工業）、▼52kg級 岩本博行（国士舘大）、▼57kg級 角地山豊（警視庁）、▼62kg級 吉田実（自衛隊）、▼68kg級 泉保久（自衛隊）、▼74kg級 大谷睦義（静岡ク）、▼82kg級 伊藤敦（京都ク）、▼90kg級 有本良孝（和歌山ク）、▼100kg級 浅沼俊幸（自衛隊）、▼130kg級 奈良英則（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 菊地喜郷（静岡ク）、▼52kg級 佐々木昌常（自衛隊）、▼57kg級 西見健吉（自衛隊）、▼62kg級 出口泰三（和歌山ク）、▼68kg級 木村好男（警視庁）、▼74kg級 森太郎（奈良ク）、▼82kg級 渡部秀隆（自衛隊）、▼90kg級 山口孝二（自衛隊）、▼100kg級 福辺雅彦（奈良ク）、▼130kg級 神子沢健一（自衛隊）

◇全日本女子選手権（6月11日、東京・城西高）

《優勝者》▼44kg級 吉村祥子（代々木ク）、▼47kg級 山本美憂（日体ク）、▼50kg級 福田京子（代々木ク）、▼53kg級 小滝初江（日体ク）、▼57kg級 坂本涼子（中京女大）、▼61kg級 星川君枝（ユナイテッドスティール）、▼65kg級 飯島晶子（日

体ク)、▼70kg 級 岩間利香 (ユナイテッドスティール)、▼75kg 級 脇恵衣子 (全日本女子プロレス練習生)、▼75kg 以上級 井上京子 (全日本女子プロレス練習生)

◇東日本学生春季新人戦 (6月21～23日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 河合亨 (日体大)、▼52kg 級 山口英雄 (中大)、▼57kg 級 森本正悟 (日体大)、▼62kg 級 川島健二 (早大)、▼68kg 級 桜庭和志 (中大)、▼74kg 級 太田拓弥 (日体大)、▼82kg 級 笹原洋一郎 (日体大)、▼90kg 級 藤田和之 (日大)、▼90kg 以上級 星野章 (日体大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 松浦俊之 (東海大)、▼52kg 級 尾白賢治 (日体大)、▼57kg 級 坂村智幸 (東農大)、▼62kg 級 花原大介 (日体大)、▼68kg 級 山方隆之 (早大)、▼74kg 級 平原謙也 (国士舘大)、▼82kg 級 佐々木秀幸 (日体大)、▼90kg 級 藤田和之 (日大)、▼90kg 以上級 高橋重則 (東洋大)

◇西日本学生春季リーグ戦 (6月29日～7月1日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1] 同志社大 (5季連続13度目)、[2] 福岡大、[3] 近大、[4]、[5]、[6]

◇全日本エスポアール選手権 (7月6～8日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg 級 若松正 (東洋大)、▼52kg 級 藤村和人 (日大)、▼57kg 級 坪井勇 (日体大)、▼62kg 級 川島健二 (早大)、▼68kg 級 太田拓弥 (日体大)、▼74kg 級 児玉健 (中大)、▼82kg 級 石庭新吾 (アイシン精機)、▼90kg 級 藤田和之 (日大)、▼100kg 級 高橋和生 (日大)、▼130kg 級 高橋則行 (東洋大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg 級 浅川亮介 (山梨・峡北高)、▼52kg 級 尾白賢治 (日体大)、▼57kg 級 花原大介 (日体大)、▼62kg 級 松田昌明 (国士舘大)、▼68kg 級 明壁正人 (山梨学院大)、▼74kg 級 伊藤強 (早大)、▼82kg 級 渡部秀隆 (自衛隊)、▼90kg 級 高橋和夫 (日大)、▼100kg 級 野々村孝 (山梨学院大)、▼130kg 級 神子沢健一 (自衛隊)

◇インターハイ (8月2～5日、徳島・池田高)

《学校対抗戦》[1] 鹿児島・鹿児島商工 (11年ぶり3度目)、[2] 岐阜・岐阜工、[3] 秋田・秋田経法大、兵庫・神戸西

《個人戦優勝者》▼46kg 級 山口讓二 (京都・宇治)、▼50kg 級 森進一 (鹿児島・鹿児島商工)、▼54kg 級 井上威 (茨城・霞ヶ浦)、▼58kg 級 浜田広嗣 (福岡・築上

西)、▼63kg級 宮本健二(徳島・穴吹)、▼68kg級 横山秀和(秋田・秋田経法大付)、▼74kg級 荻田剛志(静岡・沼津学園)、▼74kg以上級 千綿辰也(鹿児島・鹿児島商工)

◇全国高校生グレコローマン選手権(8月18~20日、東京・駒沢体育館)

《優勝者》▼46kg級 森下浩(和歌山・新宮)、▼50kg級 田中貴範(愛知・星城)、▼54kg級 吉岡和輝(京都・網野)、▼58kg級 石川智久(茨城・土浦日大)、▼63kg級 宮本健二(徳島・穴吹)、▼68kg級 佐藤大(秋田・秋田商)、▼74kg級 和田敏行(徳島・穴吹)、▼81kg級 戸部徹(秋田・秋田経法大付)、▼87kg級 篠原健一郎(徳島・鳴門工)、▼115kg級 茂野充宏(和歌山・和歌山北)

◇全日本学生選手権(8月23~26日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 若松正(東洋大)、▼52kg級 水野将嘉(早大)、▼57kg級 佐々木一郎(日体大)、▼62kg級 奥山恵二(日体大)、▼68kg級 太田拓弥(日体大)、▼74kg級 得本啓次(日体大)、▼82kg級 石沢常光(早大)、▼90kg級 藤田和之(日大)、▼100kg級 間山泰範(日体大)、▼130kg級 鈴木賢一(大東大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 山本哲也(日体大)、▼52kg級 清水光二(日体大)、▼57kg級 中村吉信(日大)、▼62kg級 森浩(日体大)、▼68kg級 今村浩之(日体大)、▼74kg級 川井孝人(日体大)、▼82kg級 田崎光之(国士舘大)、▼90kg級 園田栄(日体大)、▼100kg級 野々村孝(山梨学院大)、▼130kg級 鈴木賢一(大東大)

◇西日本学生新人戦(10月14~15日、大阪・桃山学院大)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 井上雄策(近大)、▼52kg級 原健一(桃山学院大)、▼57kg級 西政仁(桃山学院大)、▼62kg級 堀茂高(近大)、▼68kg級 尾崎弘(近大)、▼74kg級 奥田博生(同志社大)、▼82kg級 木下貴博(近大)、▼90kg級 宮崎隆光(桃山学院大)、▼130kg級 野崎賢治(近大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 井上雄策(近大)、▼52kg級 原健一(桃山学院大)、▼57kg級 西政仁(桃山学院大)、▼62kg級 山田武生(桃山学院大)、▼68kg級 尾崎弘(近大)、▼74kg級 藤原教雄(近大)、▼82kg級 宮崎隆光(桃山学院大)、▼90kg級 大西博(近大)、▼130kg級 野崎賢治(近大)

◇全日本学生王座決定戦(9月29~30日、東京・駒沢体育館) =団体戦の勝ち点方式

《順位》[1] 国士舘大、[2] 日体大、[3] 日大

※国士舘大は12年ぶり3度目

◇第1回全日本大学グレコローマン選手権（10月17～18日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼48kg級 加藤欣央（東海大）、▼52kg級 清水光二（日体大）、▼57kg級 花原大介（日体大）、▼62kg級 曾我勝仁（拓大）、▼68kg級 山田琢也（専大）、▼74kg級 川井孝人（日体大）、▼82kg級 永田裕志（日体大）、▼90kg級 小川司（国士舘大）、▼100kg級 間山泰範（日体大）、▼130kg級 鈴木賢一（大東大）

《大学対抗得点》[1] 日体大、[2] 国士舘大、[3] 中大

◇国体（9月18～21日、北海道・岩内中央小、旭川市総合体育館）

《成年フリースタイル優勝者》▼48kg級 山下忍（茨城・日体大）、▼52kg級 上島一敏（沖縄・那覇西高）、▼57kg級 角地山豊（東京・警視庁）、▼62kg級 奥山恵二（茨城・日体大）、▼68kg級 五位塚悟（山梨・農林高）、▼74kg級 原喜彦（新潟・新潟北高教）、▼82kg級 菊地隆（和歌山・県教育庁）、▼90kg級 赤石明雄（山梨・東山教育事務所）、▼100kg級 中西学（和歌山・県教育庁）、▼130kg級 本田多聞（埼玉・自衛隊）

《成年グレコローマン優勝者》▼48kg級 大橋正教（山梨・山梨学院大職）、▼52kg級 一色啓雅（和歌山・県体育館）、▼57kg級 佐藤貢（秋田・日体大）、▼62kg級 長内清一（青森・八戸工高教）、▼68kg級 堀浩章（岐阜・東濃養護学教）、▼74kg級 湯浅邦茂（山梨・甲府養護学教）、▼82kg級 屋比久保（沖縄・北中条高教）、▼90kg級 東出徹（奈良・高取高教）、▼100kg級 近藤努（埼玉・自衛隊）、▼130kg級 出口一也（和歌山・県体育館）

《少年フリースタイル優勝者》▼46kg級 余膳和宏（大阪・近大付）、▼50kg級 窪木浩（千葉・八千代松陰）、▼54kg級 和田貴広（鹿児島・鹿児島商工）、▼58kg級 山本康次（栃木・足利工大付）、▼63kg級 佐々木美樹（秋田・秋田経法大付）、▼68kg級 横山秀和（秋田・秋田経法大付）、▼74kg級 荻田剛志（静岡・沼津学園）、▼81kg級 藤江泰久（岐阜・岐阜工）、▼88kg級 風見利勝（茨城・霞ヶ浦）、▼115kg級 中川誠一（兵庫・神戸西）

《少年グレコローマン優勝者》▼46kg級 森下浩（和歌山・新宮）、▼50kg級 田中貴範（石川・星城）、▼54kg級 吉岡和輝（京都・網野）、▼58kg級 高橋朋夫（山形・東根工）、▼63kg級 長和徹（兵庫・神戸西）、▼68kg級 福田貴司（栃木・足利工大）

付)、▼74kg級 戸部徹(秋田・秋田経法大付)、▼81kg級 外山秀樹(愛知・星城)、▼88kg級 鈴木文雄(秋田・秋田商)、▼115kg級 茂野充宏(和歌山・和歌山北)

◇全日本大学選手権(11月8～9日、兵庫・兵庫県立総合体育館)

《優勝者》▼48kg級 山下忍(日体大)、▼52kg級 清水一成(日体大)、▼57kg級 佐々木一郎(日体大)、▼62kg級 奥山恵二(日体大)、▼68kg級 太田拓弥(日体大)、▼74kg級 野口篤史(大東大)、▼82kg級 石沢常光(早大)、▼90kg級 岡部政造(東洋大)、▼100kg級 間山泰範(日体大)、▼130kg級 小幡弘之(日大)

《大学対抗得点》[1] 日体大(5年連続12度目)、[2] 日大、[3] 国士舘大

◇西日本学生秋季リーグ戦(11月17～19日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1] 同志社大(6季連続14度目)、[2] 近大、[3] 桃山学院大、[4] 福岡大、[5] 徳山大、[6] 名商大

◇全国社会人オープン選手権(11月18～19日、横浜市消防訓練センター)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 菊地喜郷(静岡クラブ)、▼52kg級 笹山秀雄(自衛隊)、▼57kg級 角地山豊(警視庁)、▼62kg級 岡田実(自衛隊)、▼68kg級 外屋敷剛(自衛隊)、▼74kg級 窪田伸広(福井県協会)、▼82kg級 石庭新吾(アイシン精機)、▼90kg級 和久井始(自衛隊)、▼100kg級 島田宏(三洋電機)、▼130kg級 大川浩一(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 三笠修二(東洋YMCA)、▼52kg級 蝦名康一(自衛隊)、▼57kg級 西見健吉(自衛隊)、▼62kg級 黒飛健(静岡クラブ)、▼68kg級 木村好男(警視庁)、▼74kg級 三宅靖志(東海商船)、▼82kg級 渡部秀隆(自衛隊)、▼90kg級 山口孝二(自衛隊)、▼100kg級 島田宏(三洋電機)、▼130kg級 奈良英則(警視庁)

◇東日本学生秋季新人戦(12月5～7日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》▼48kg級 若松正(東洋大)、▼52kg級 朝比奈巖(日体大)、▼57kg級 佐藤貢(日体大)、▼62kg級 勝龍三郎(日体大)、▼68kg級 赤石光輝(日大)、▼74kg級 平塚洋充(日大)、▼82kg級 太田拓弥(日体大)、▼90kg級 赤松知幸(中大)、▼90kg以上級 近藤博和(国士舘大)

《男子グレコローマン優勝者》▼48kg級 竹村星一(東洋大)、▼52kg級 下村保伸(国士舘大)、▼57kg級 深水真司(日体大)、▼62kg級 田橋治(日体大)、▼68kg

級 吉本収（国士舘大）、▼74kg 級 木村成明（拓大）、▼82kg 級 浅井努（日体大）、▼90kg 級 佐々木秀幸（日体大）、▼90kg 以上級 星野章（日体大）

◇全日本女子オープン選手権（1990年2月16～17日、東京・青少年総合センター）

《優勝者》▼44kg 級 上林美穂（羽島市連盟）、▼48kg 級 山本美憂（朝日住建日体ク）、▼50kg 級 福原邦子（朝日住建日体ク）、▼53kg 級 遠藤美子（東洋大）、▼57kg 級 坂本涼子（吹田市民教室）、▼61kg 級 星川君枝（ユナイテッドステイール）、▼65kg 級 飯島晶子（朝日住建日体ク）、▼70kg 級 岩間利香（ユナイテッドステイール）、▼75kg 級 船越光子（壬生ちびっ子教室）、▼75kg 以上級 西川一美（中京女大）